

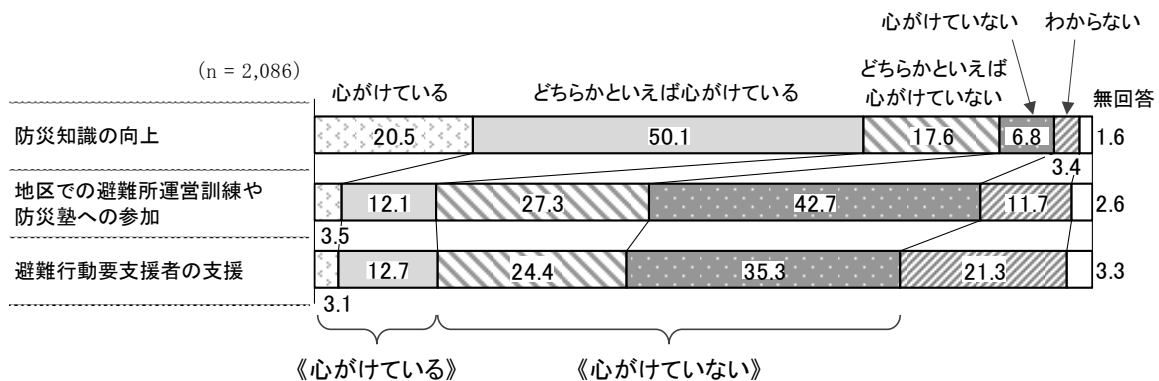
## 12. 災害時の備え

### (1) 防災への対処

◎「防災知識の向上」は《心がけている》がほぼ7割

問3 1 あなたは、防災に対して日頃から心がけていることはありますか。次の(1)から(3)の項目について、あてはまるものを選んでください。(○はそれぞれ1つずつ)

図 12-1-1



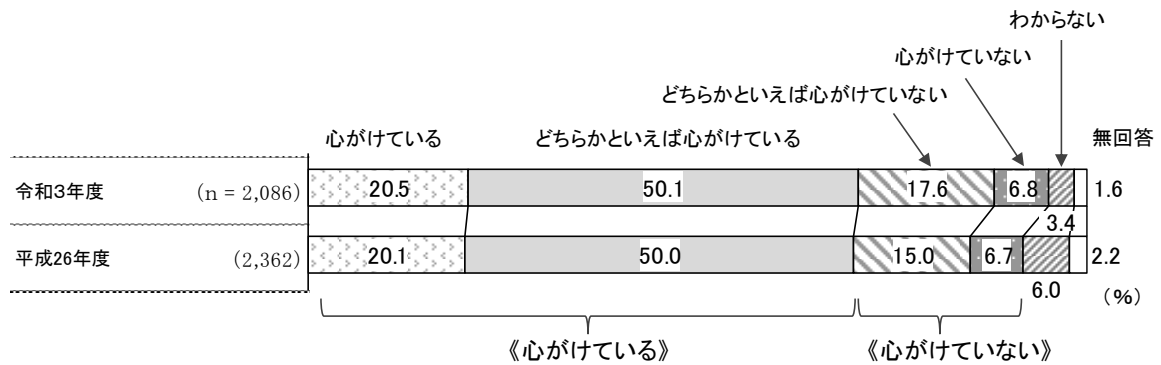
#### <調査結果>

防災に対して日頃から心がけていることがあるか聞いたところ、「心がけている」と「どちらかといえば心がけている」を合わせた《心がけている》は「防災知識の向上」(70.6%)がほぼ7割、一方「地区での避難所運営訓練や防災塾への参加」(15.6%)、「避難行動要支援者の支援」(15.8%)は1割半ばにとどまっており、「防災知識の向上」を心がけている人が多い。「どちらかといえば心がけていない」と「心がけていない」を合わせた《心がけていない》は「地区での避難所運営訓練や防災塾への参加」(70.0%)が7割で他の2項目より高い。

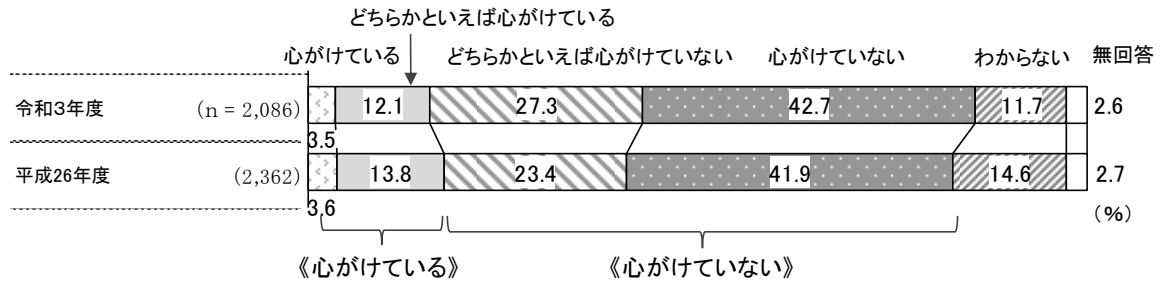
(図 12-1-1)

図 12-1-2 防災への対処（時系列）

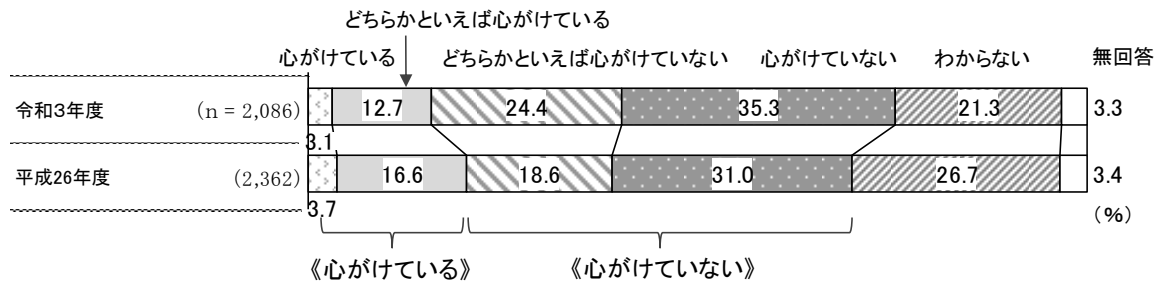
「防災知識の向上」(時系列)



「地区での避難所運営訓練や防災塾への参加」(時系列)



「避難行動要支援者の支援」(時系列)



<調査結果>

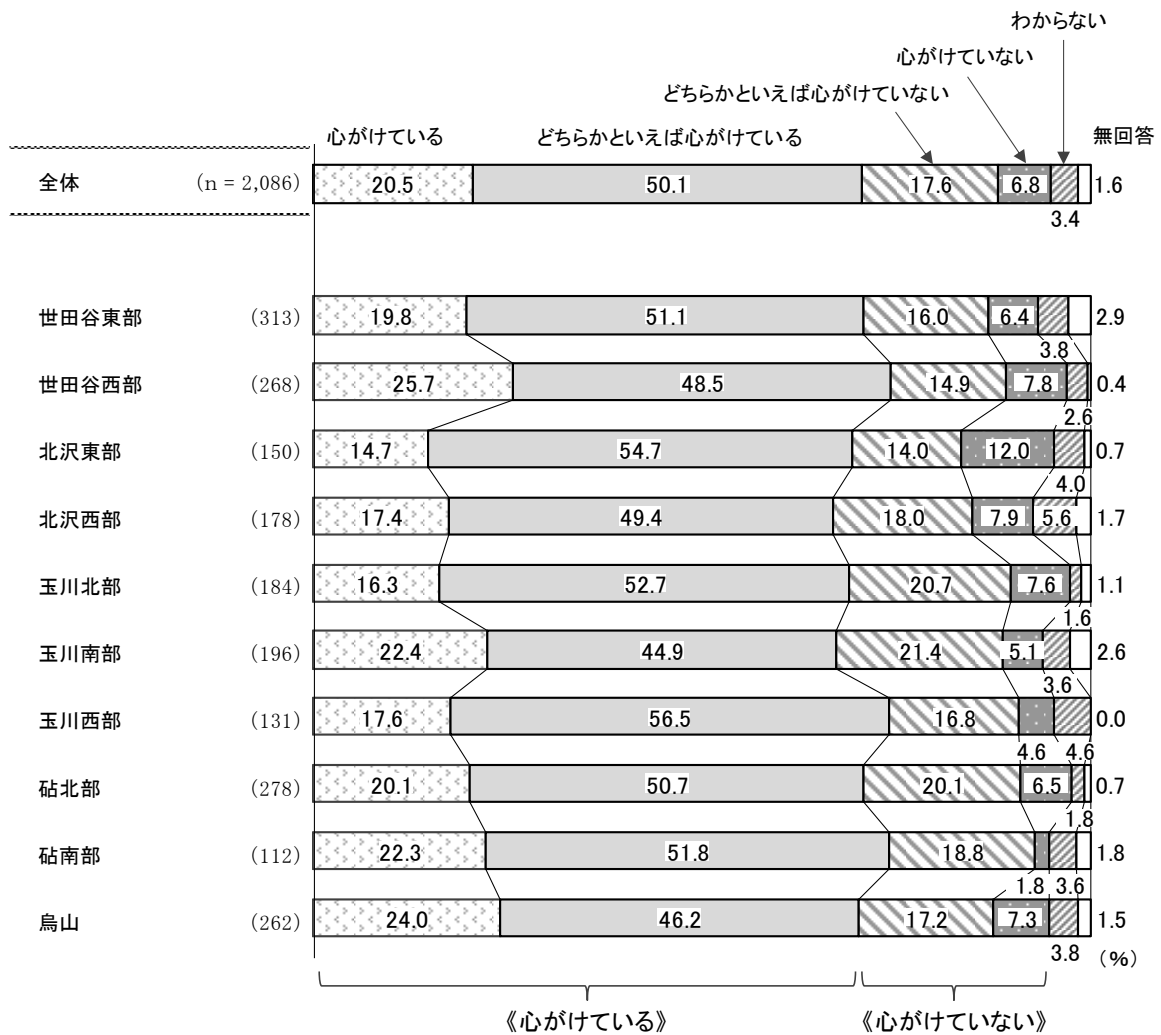
「防災知識の向上」について平成 26 年度からの時系列の変化をみると、「心がけている」は平成 26 年度 (70.1%) から令和 3 年度 (70.6%)、「心がけていない」は平成 26 年度 (21.7%) から令和 3 年度 (24.4%) で大きな違いはみられない。

「地区での避難所運営訓練や防災塾への参加」について平成 26 年度からの時系列の変化をみると、「心がけている」は平成 26 年度 (17.4%) から令和 3 年度 (15.6%) で大きな違いはみられない。「心がけていない」は平成 26 年度 (65.3%) から令和 3 年度 (70.0%) で増加している。

「避難行動要支援者の支援」について平成 26 年度からの時系列の変化をみると、「心がけている」は平成 26 年度 (20.3%) から令和 3 年度 (15.8%) で減少している。「心がけていない」は平成 26 年度 (49.6%) から令和 3 年度 (59.7%) で増加している。(図 12-1-2)

図 12-1-3 防災への対処

「防災知識の向上」(地域別)

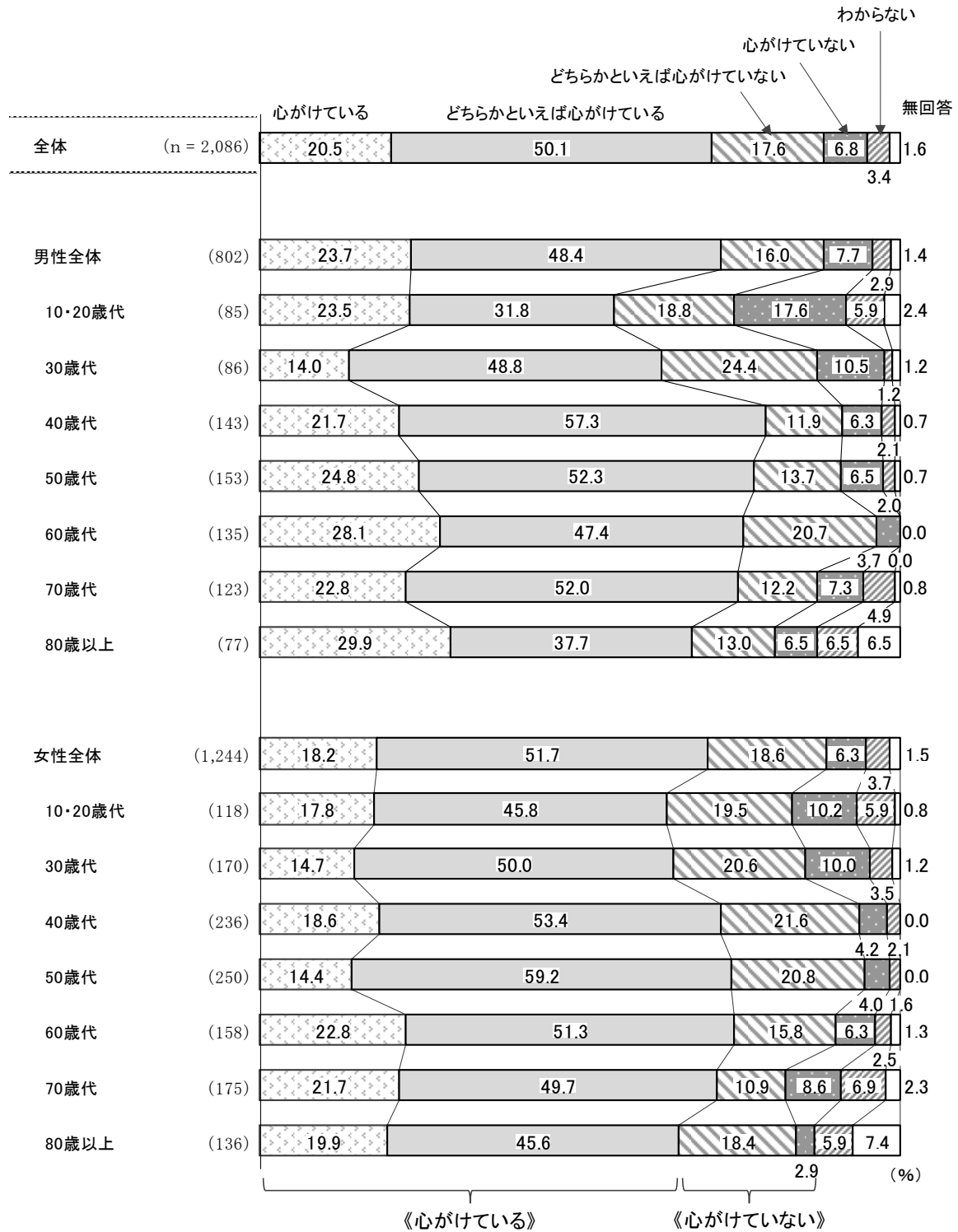


〈調査結果〉

「防災知識の向上」について地域別にみると、「心がけている」は世田谷西部、烏山で2割半ばとなっている。《心がけている》は世田谷西部、玉川西部、砧南部で7割半ば、《心がけていない》は玉川北部、玉川南部、砧北部で3割近くとなっている。(図 12-1-3)

図 12-1-4 防災への対処

「防災知識の向上」(性・年齢別)

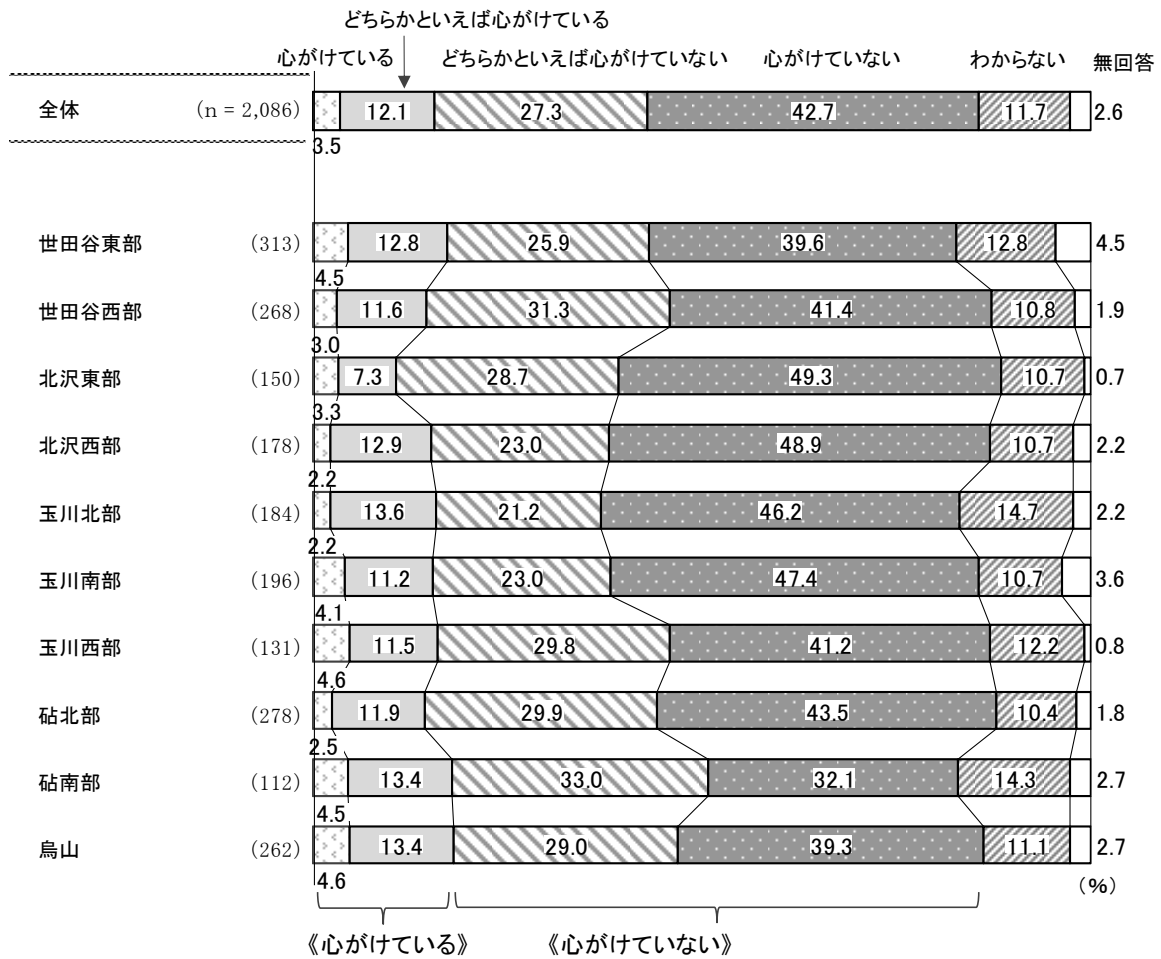


〈調査結果〉

「防災知識の向上」について性・年齢別にみると、《心がかけている》は男性の40歳代がほぼ8割、女性の60歳代が7割半ばとなっている。(図12-1-4)

図 12-1-5 防災への対処

「地区での避難所運営訓練や防災塾への参加」(地域別)

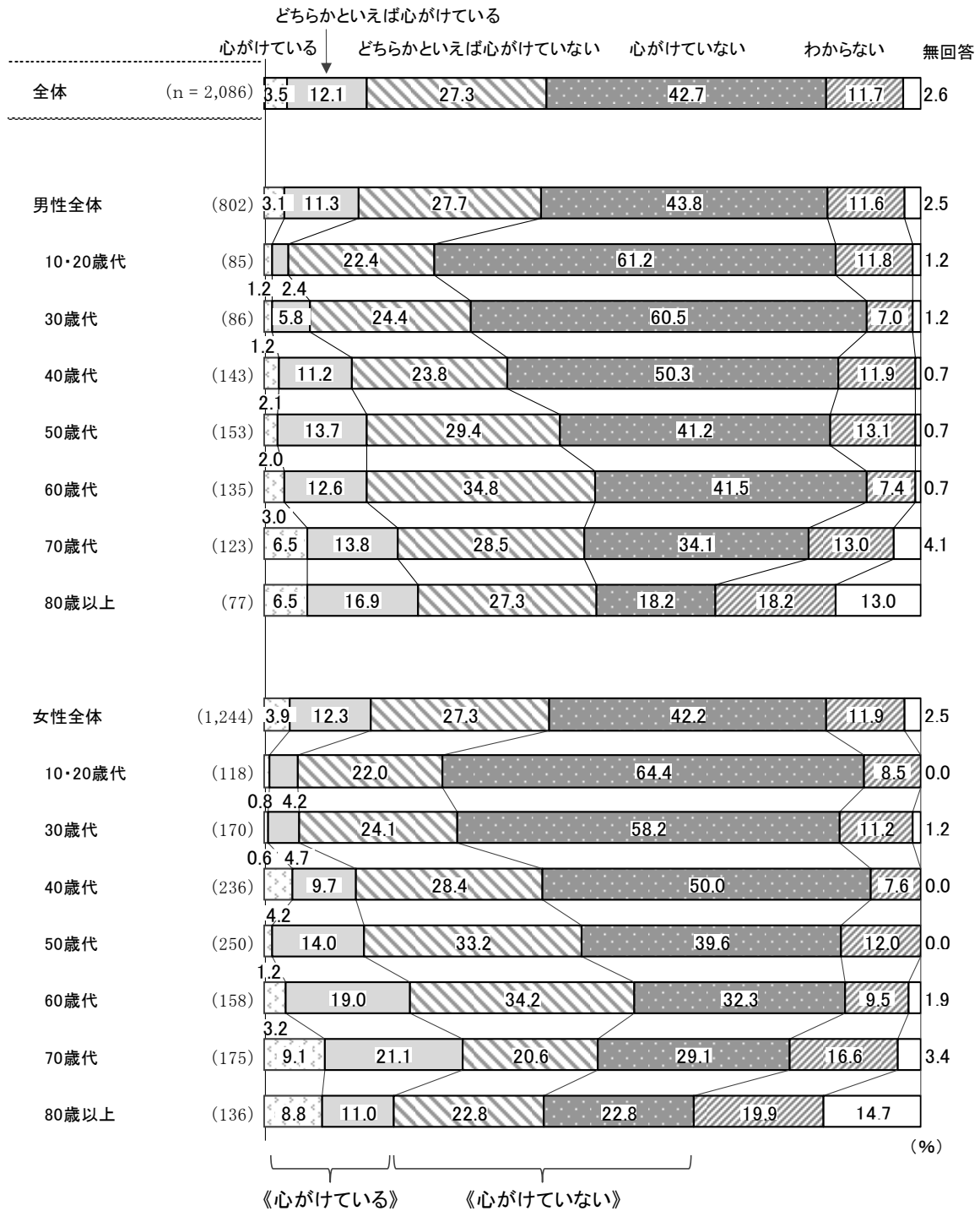


〈調査結果〉

「地区での避難所運営訓練や防災塾への参加」について地域別にみると、《心がけている》は世田谷東部、砧南部、烏山で2割近くとなっている。《心がけていない》は北沢東部で8割近くとなっている。(図 12-1-5)

図 12-1-6 防災への対処

「地区での避難所運営訓練や防災塾への参加」(性・年齢別)

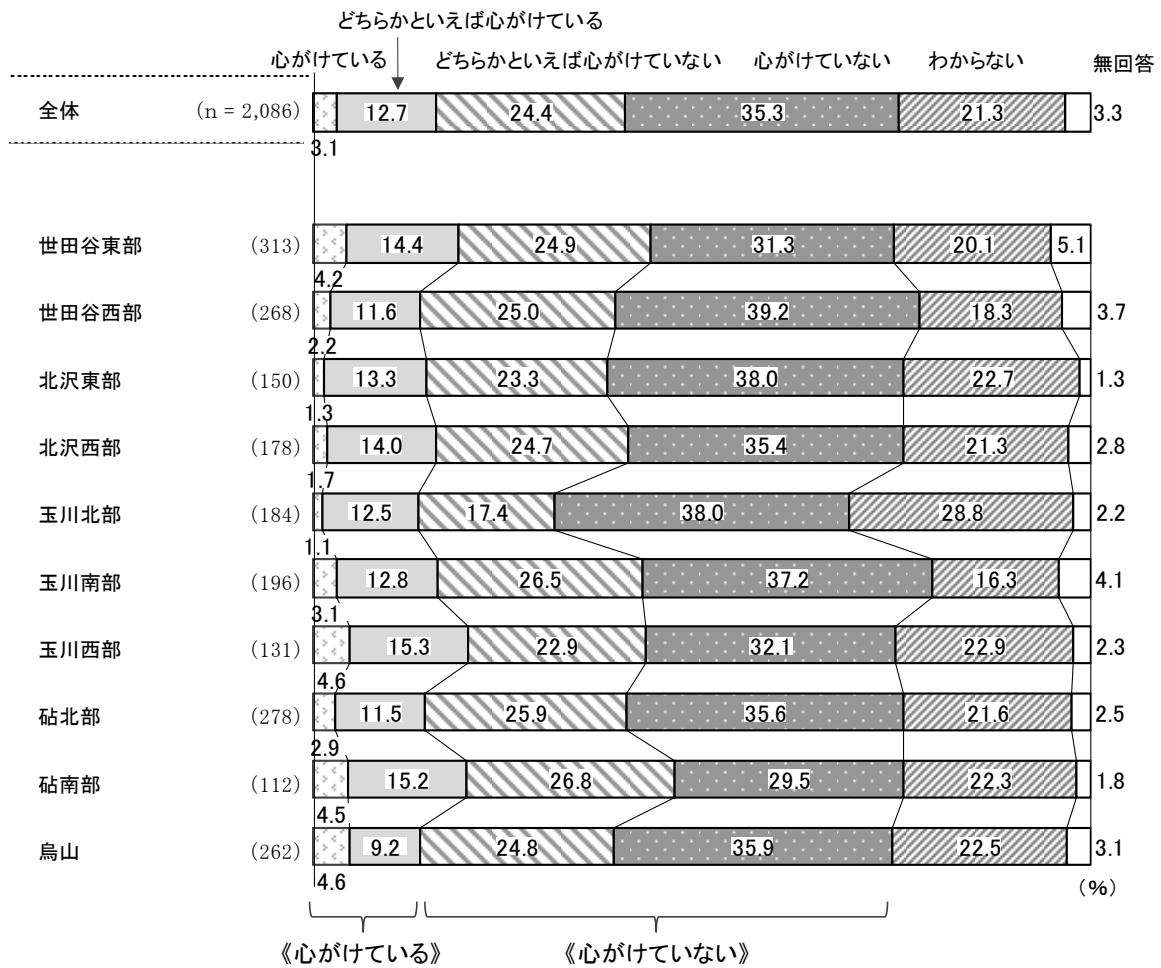


〈調査結果〉

「地区での避難所運営訓練や防災塾への参加」について性・年齢別にみると、《心がけている》は女性の70歳代が3割、男性の80歳以上が2割を超えている。《心がけていない》は女性の10・20歳代、男性の30歳代が8割半ばとなっている。(図12-1-6)

図 12-1-7 防災への対処

「避難行動要支援者の支援」(地域別)



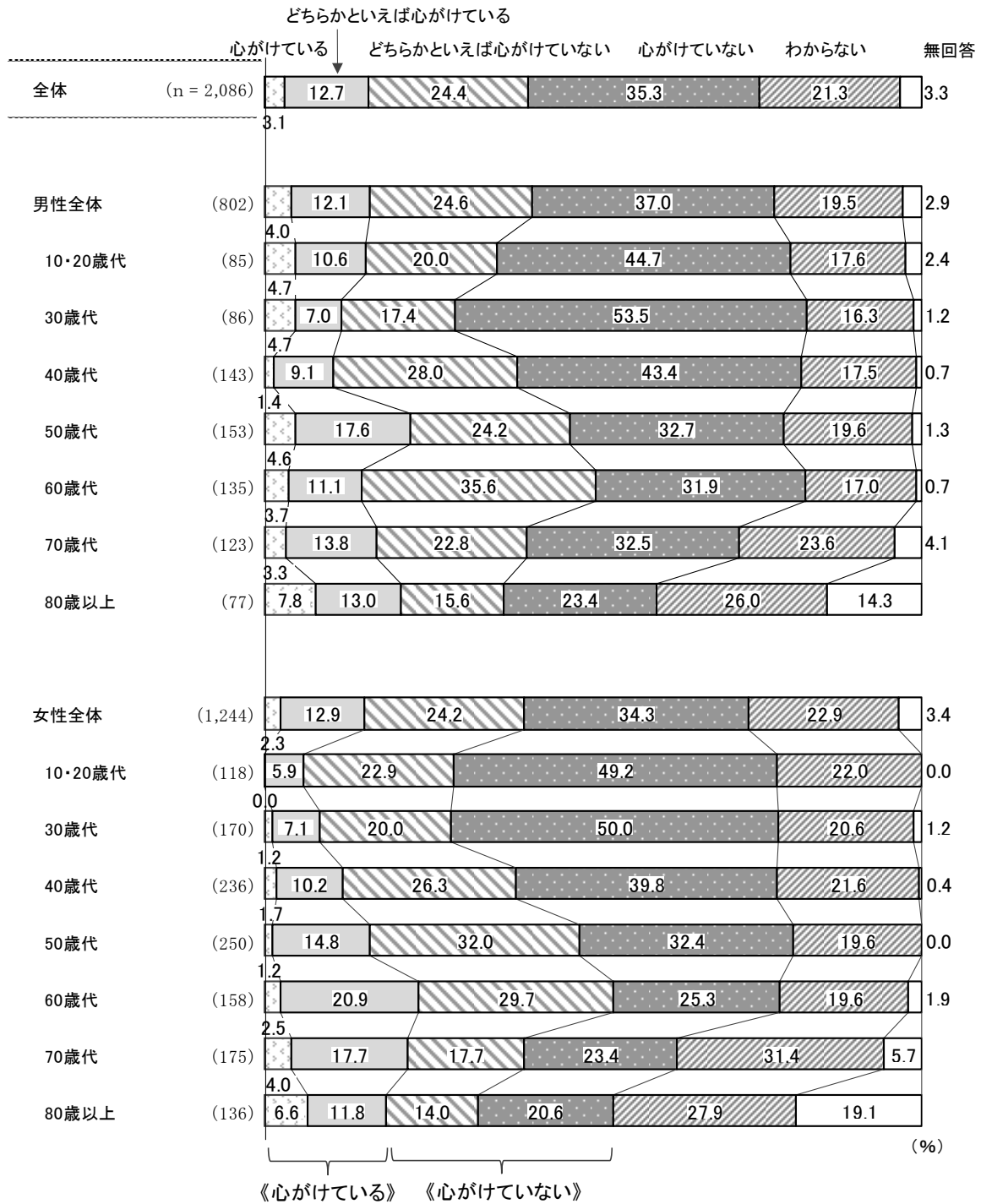
〈調査結果〉

「避難行動要支援者の支援」について地域別にみると、《心がけている》は玉川西部で2割となっている。《心がけていない》は世田谷西部で6割半ばとなっている。

(図 12-1-7)

図 12-1-8 防災への対処

「避難行動要支援者の支援」(性・年齢別)



〈調査結果〉

「避難行動要支援者の支援」について性・年齢別にみると、《心がかけている》は女性の60歳代、男性の50歳代が2割を超えている。《心がかけていない》は女性の10・20歳代、男性の40歳代が7割を超えている。(図12-1-8)

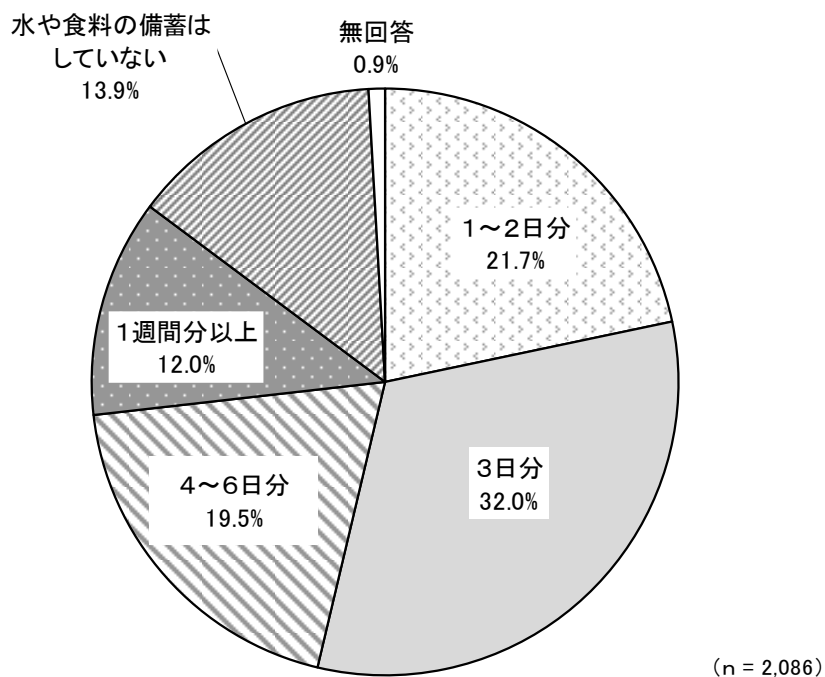


## (2) 水や食料の備蓄について

◎水や食料の備蓄は「3日分」が3割を超えている

問32 あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料は何日分備蓄していますか。  
(○は1つ)

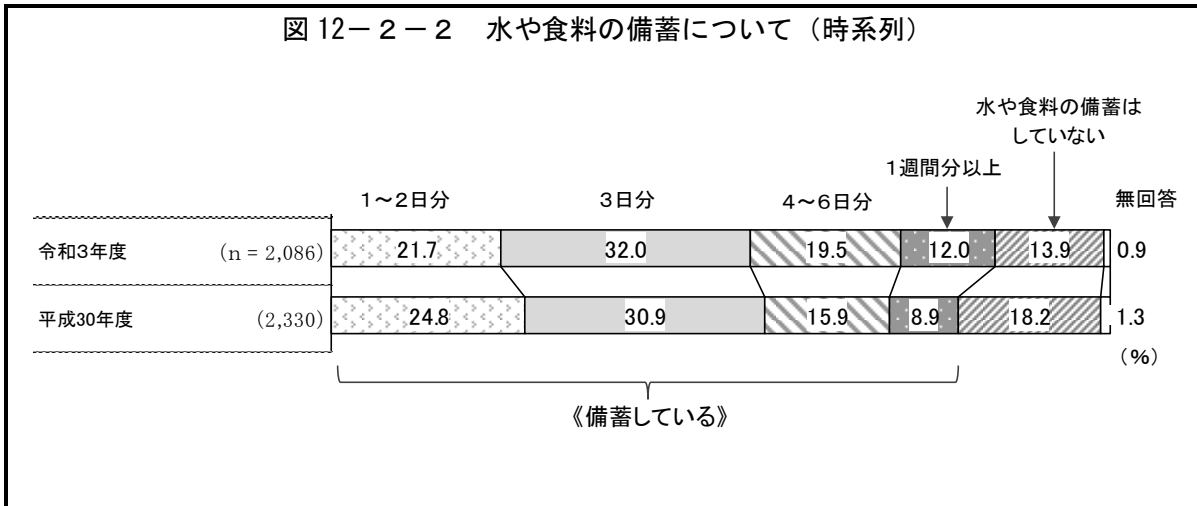
図 12-2-1



### <調査結果>

災害に備えて水や食料を何日分備蓄しているかを聞いたところ、「3日分」(32.0%)が3割を超えて最も高く、以下、「1~2日分」(21.7%)、「4~6日分」(19.5%)などと続いている。「水や食料の備蓄はしていない」(13.9%)は1割を超えている。(図 12-2-1)

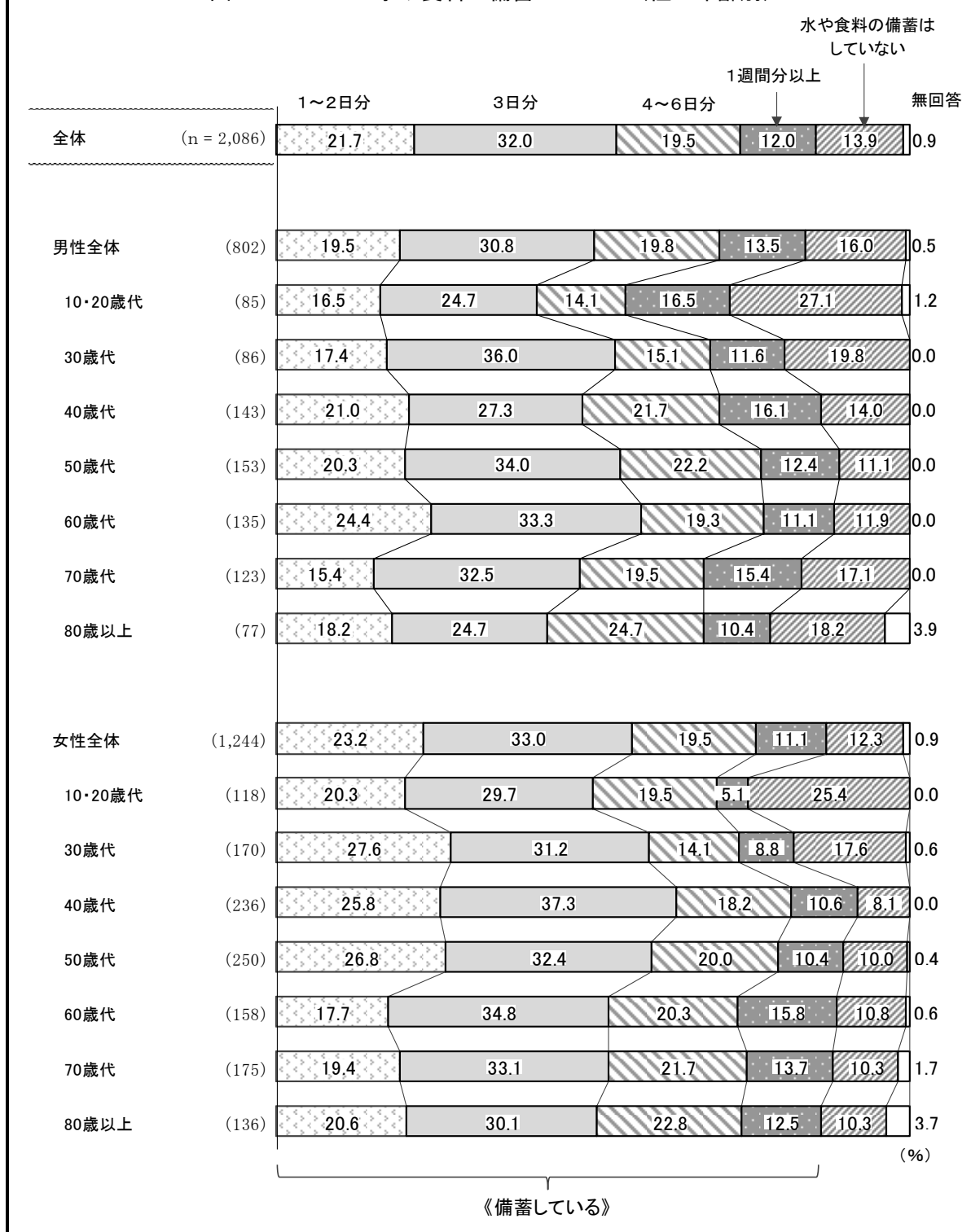
図 12-2-2 水や食料の備蓄について（時系列）



〈調査結果〉

平成 30 年度からの時系列の変化をみると、《備蓄している》は平成 30 年度（80.5%）から令和 3 年度（85.2%）で増加している。（図 12-2-2）

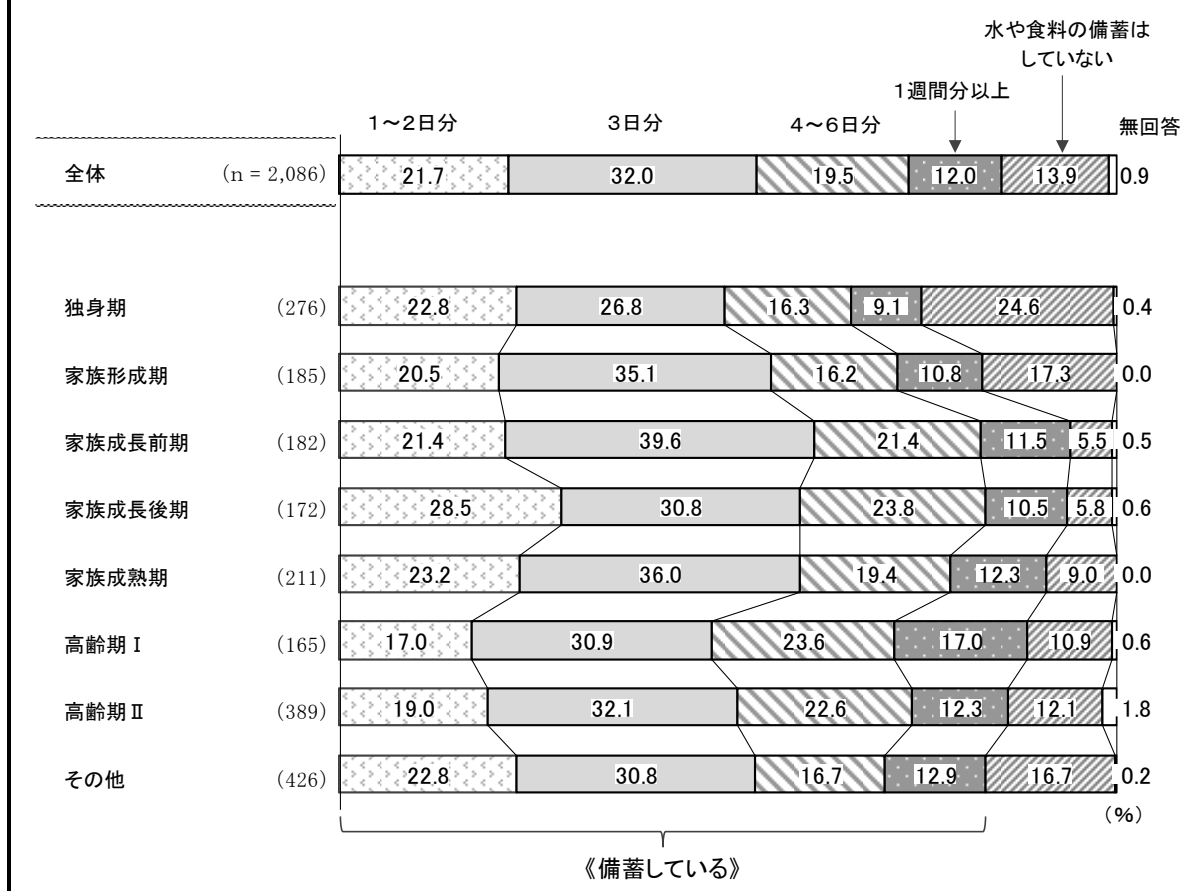
図 12-2-3 水や食料の備蓄について（性・年齢別）



<調査結果>

性・年齢別にみると、3日分以上（「3日分」＋「4～6日分」＋「1週間分以上」）の水や食料を備蓄している割合はいずれの年代も5割を超えており、特に女性の60歳代はほぼ7割となっている。「水や食料の備蓄はしていない」は男女とも10・20歳代が他の年代に比べ高く、男性の10・20歳代で3割近く、女性の10・20歳代で2割半ばとなっている。（図12-2-3）

図 12-2-4 水や食料の備蓄について（ライフステージ別）



〈調査結果〉

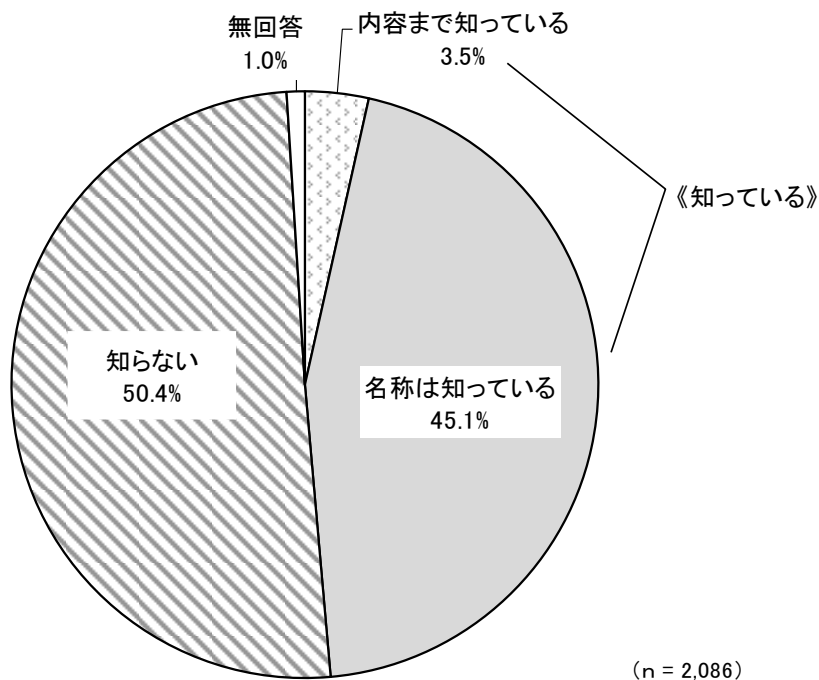
ライフステージ別にみると、3日分以上（「3日分」＋「4～6日分」＋「1週間分以上」）の水や食料を備蓄している割合は家族成長前期、高齢期 I が7割を超えている。一方、独身期で3日分以上備蓄している割合は5割を超えているが他のライフステージに比べ低い。（図 12-2-4）

### (3) 地区防災計画の認知度

◎地区防災計画の「名称は知っている」が4割半ばだが「内容まで知っている」は1割未満

問33 あなたは、地区防災計画を知っていますか。(○は1つ)

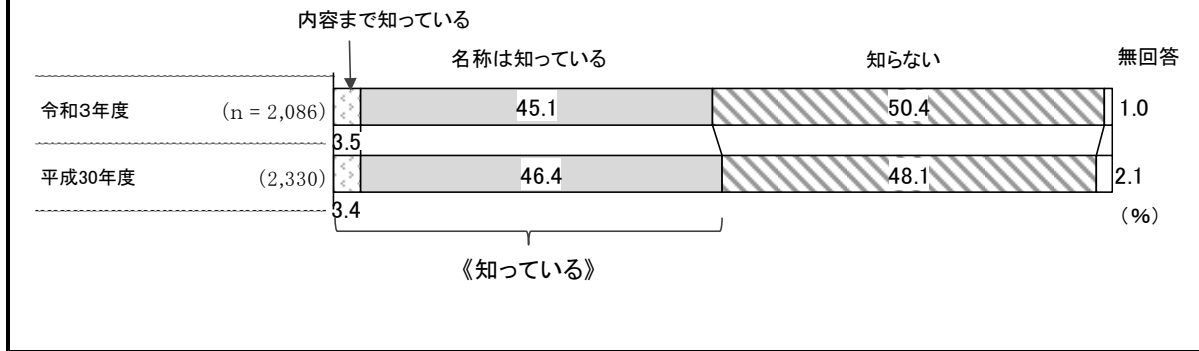
図12-3-1



#### <調査結果>

地区防災計画の認知度を聞いたところ、「名称は知っている」(45.1%)が4割半ば、「内容まで知っている」(3.5%)と合わせた《知っている》(48.6%)が5割近く、「知らない」(50.4%)が5割となっている。(図12-3-1)

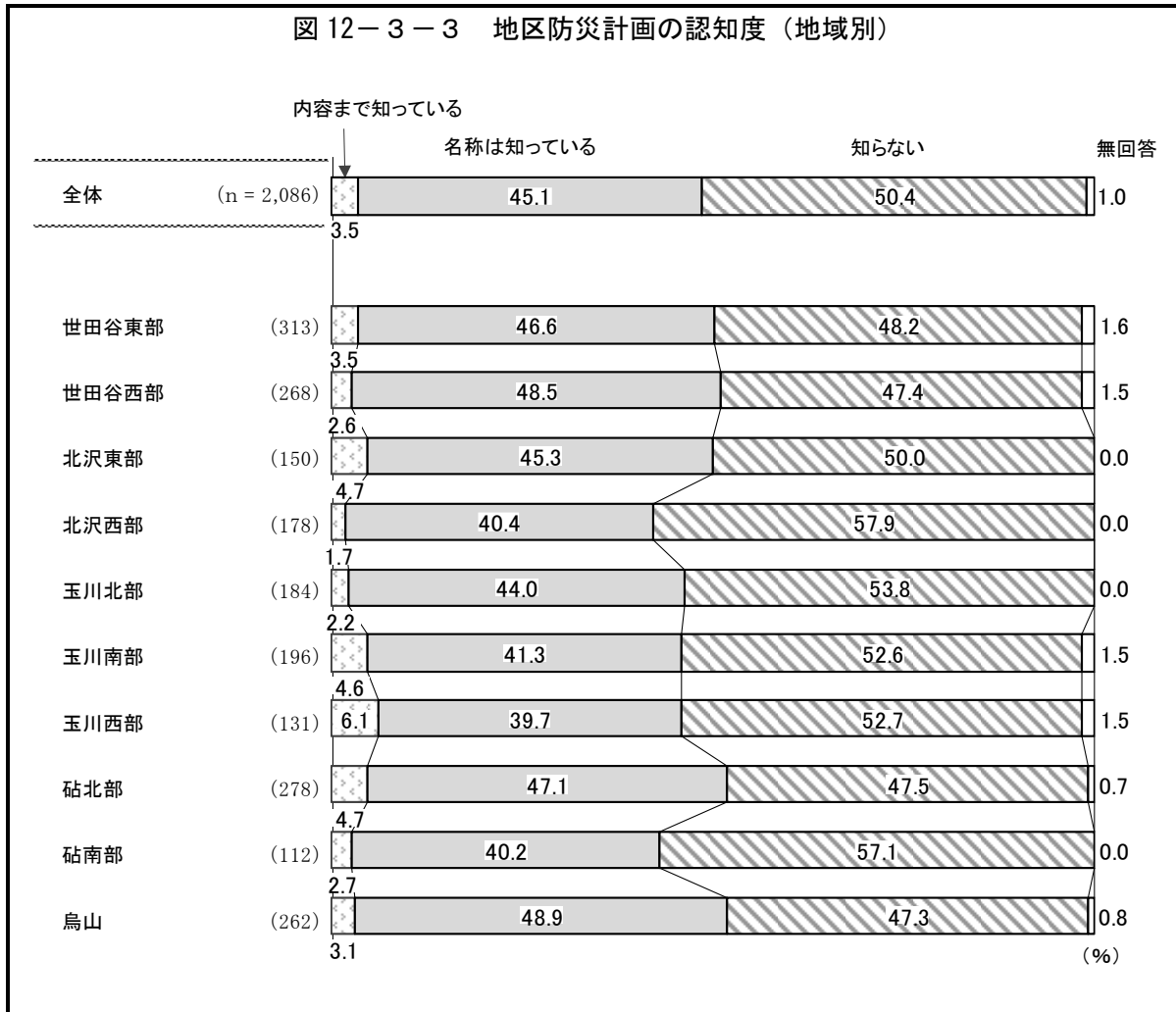
図 12-3-2 地区防災計画の認知度（時系列）



<調査結果>

平成30年度からの時系列の変化をみると、《知っている》は平成30年度（49.8%）から令和3年度（48.6%）で大きな違いはみられない。（図12-3-2）

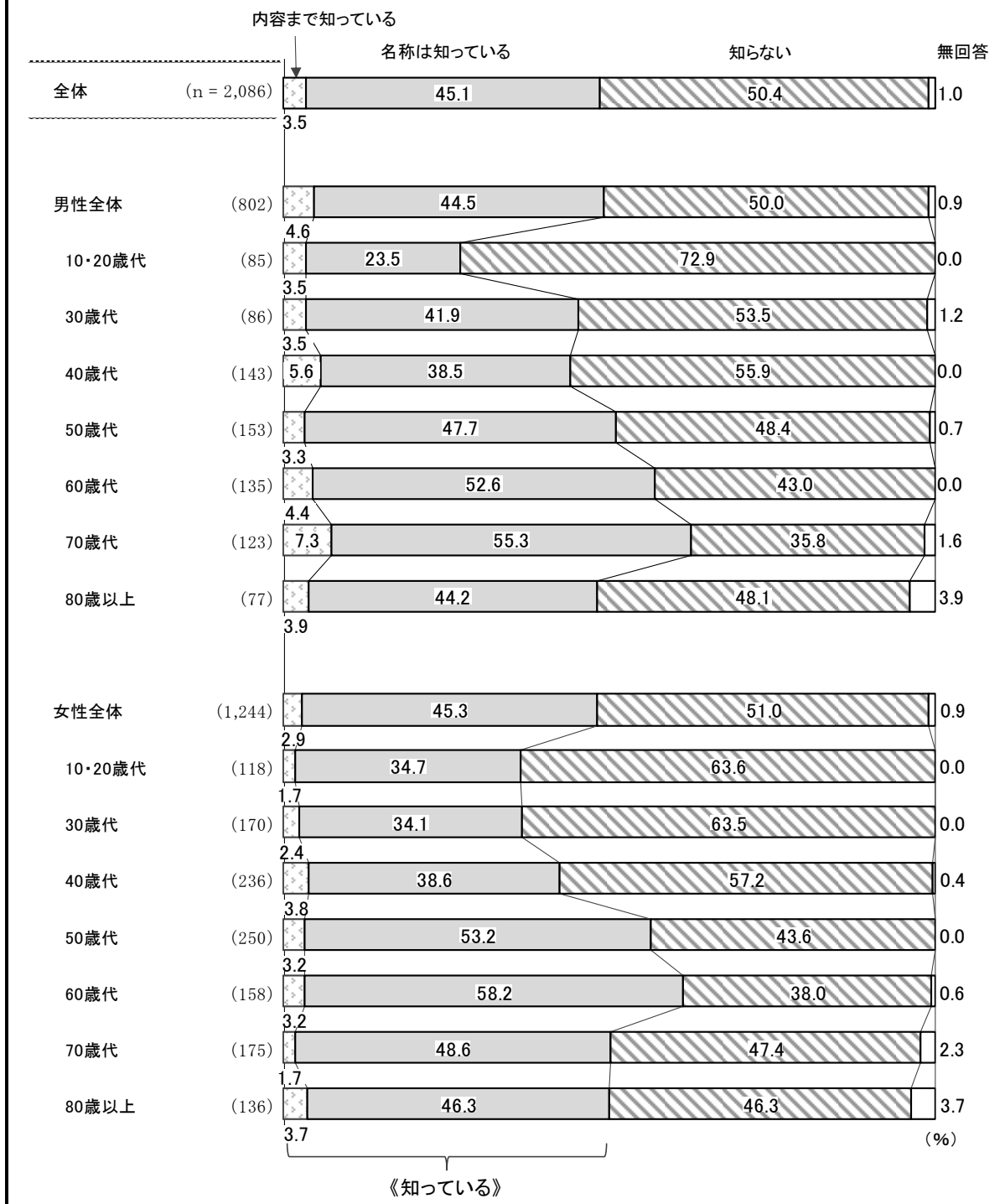
図 12-3-3 地区防災計画の認知度（地域別）



〈調査結果〉

地域別にみると、「知っている」は世田谷西部、砧北部、烏山で5割を超えている。「知らない」は北沢西部、砧南部で6割近くとなっている。(図 12-3-3)

図 12-3-4 地区防災計画の認知度（性・年齢別）



〈調査結果〉

性・年齢別にみると、《知っている》は男性の70歳代と女性の60歳代で6割を超えている。「知らない」は男性の10・20歳代で7割を超え、女性の10・20歳代、30歳代で6割を超えている。(図12-3-4)